
経済 TOPICS

No. 246

(2025 年 8 月 25 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産、個人消費、輸出が横這い圏内の動きのなか、設備投資が堅調に推移していることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、エネルギー価格の落ち着きなどから、前年比プラス幅が縮小している。この間、米国の通商政策の影響や中国経済の長期低迷など、世界経済の先行き不透明感が強い状態が続いている。

米国 … 生産が横這い圏内の動きを続けるなか、個人消費が弱含みの動きとなっているものの、設備投資が堅調に推移していることから、全体としては緩やかに拡大している。この間、労働需給は縮小均衡の状態となっている。消費者物価は、前年比プラス幅が横這い圏内の動きとなっている。

(参考) 日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の上昇テンポがやや鈍化し、エネルギー価格が政府補助金の効果などにより落ち着いたことから、前年比プラス幅が縮小している。この間、エンゲル係数(家計の消費支出に占める食費の割合)は、高い水準が続いている。

〈米国〉 サービス以外の価格が鎮静化しているなか、サービス価格の上昇圧力が継続していることから、全体としては横這い圏内の動きとなっている。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
